

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 107	116	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 1	3	ヘルパンギーナ	↑ 91	58
咽頭結膜熱	↓ 18	20	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↓ 31	56
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	→ 83	84	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 468	449	流行性角結膜炎 (はやり目)	↓ 11	16
水痘	↓ 51	68	細菌性髄膜炎	↑ 1	0
手足口病	↑ 11	5	無菌性髄膜炎	↓ 0	1
伝染性紅斑 (りんご病)	↓ 1	4	マイコプラズマ肺炎	→ 4	4
突発性発しん	↓ 42	54	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い
感染症

- 感染性胃腸炎
- インフルエンザ
- ヘルパンギーナ

- 感染性胃腸炎は、報告数 468 件(前週報告数 449 件)と増加。地区別では、山鹿、人吉、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の 67 件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- インフルエンザは、報告数 107 件(前週報告数 116 件)と減少。地区別では、八代、阿蘇、水俣に多く報告がみられる。年齢別では、10～14歳の 26 件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- ヘルパンギーナは、報告数 91 件(前週報告数 58 件)と増加。地区別では、人吉、天草、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の 37 件を最多に 7歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血 性連鎖球 菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺炎	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミ ジア 肺炎
熊本市保健所	43		7	31	146	21	3		13		5	11		10				4
山鹿保健所					37	2			1		2		*	*				
菊池保健所	10		4	5	61	8	2	1	9		16	4						
阿蘇保健所	11			1	7							1	*	*				
御船保健所					5								*	*				
八代保健所	30		1	4	29	3	1		1		3				1			
水俣保健所	7		2	3	22	2	1		1		1	1	*	*				
人吉保健所	3			15	47		2		3		25		*	*				
有明保健所			4	16	70	5	2		6		7			1				
宇城保健所	1			4	29	7			5		9	2						
天草保健所	2	1		4	15	3			3		23	12						
計	107	1	18	83	468	51	11	1	42	0	91	31	0	11	1	0	4	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上	
インフルエンザ	107			2		3	10	9	20	8	13	7	26	4	1	2	1	1				
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上							
RSウイルス感染症	1			1																		
咽頭結膜熱	18		2	7	4	3			1				1									
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	83			3	5	4	8	14	15	7	8	7	9		3							
感染性胃腸炎	468	18	35	67	47	54	50	25	32	14	26	21	52	7	20							
水痘	51	2	2	11	6	17	6	2	2	1			1		1							
手足口病	11			2	4	2	1		2													
伝染性紅斑	1				1																	
突発性発しん	42	2	23	16	1																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	91	2	8	37	16	9	11	3	2	3												
流行性耳下腺炎	31			4	2	5	3	4	5	3	3		2									
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	11				1				1		1				2	2	1	2			1	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	1																	1				
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	4			1	2	1																
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- ◇ 咽頭結膜熱：菊池
- ◇ 感染性胃腸炎：山鹿
- ◇ ヘルパンギーナ：人吉

ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナの報告数が、5週連続で増加しています。全国に比べ2倍以上多い状況が、2ヶ月ほど続いています。特に人吉地域では、警報基準値を超えて流行しています。ヘルパンギーナは、夏に流行する小児の急性ウイルス感染症で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。発熱と、のどにできる水泡性発疹が特徴で、急な発熱で発症します。2～4日ほど熱はさがり、その後発疹も消失し、ほとんどの場合経過は良好ですが、まれに髄膜炎や心筋炎を起こすことがあります。特に、ぐったりしている、強い頭痛・嘔吐を伴う発熱が2日以上続く、などが見られた場合は医療機関を受診するようにして下さい。ウイルスは、患者の鼻水や唾液、便などに存在し、回復しても数週間は、便中にウイルスが排泄されます。一般的な予防は手洗いをしっかりとすること、排泄物を適切に処理することです。外出後、食事の前やトイレの後は、流水と石けんで十分に手を洗い、タオルの共用はしないようにしましょう。保育園等小児の施設では、特に注意して感染予防に努めてください。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課